

チャレコミ・ギャザリング 2018 秋 参加者の声一覧

私にとって、チャレンジ・コミュニティが全国に広がっていることを知ることができたことが、この場に参加することができた大きな意義でした。今までは、自分が属する組織のこと、その地域のことばかりを考えており、これが全国に広がっていくことを想像できずにいました。

しかし、今回ギャザリングに参加したことで、チャレンジ・コミュニティが全国にあることを知りました。

そして、そのコミュニティが全国でチャレンジの連鎖を生み出し、地域は違っても、同じ方向に向かって走っていることを実感し、その仲間たちと議論できたことは私にとって、大きな財産です。中小企業が夢の実現に向かって走り、若者がチャレンジをしていく仕組みがより多くの地域で形になっていく未来のために、チャレンジ・コミュニティの一員として、自分自身ができることを常に考えていきたいと思います。今回は、ギャザリングに参加させていただき、本当にありがとうございました。



今回、スカラシップ制度を取り入れていただいた価値は2点あります。まず、金銭的な負担が少なかったため「行きたい！」と思った研修に迷わず参加させていただけたことです。もう1点は副次的に、ETIC.さんのイベント運営に関わるスキル（例えば、Qシートの作り方、連絡の方法）を学ぶことができたことです。自団体以外のイベントに運営側として参加することは少ないため、自分たちのイベント運営を見直すとても良い機会となりました。

2日間の研修で、一番印象に残ったことは広石さんのワークショップです。このワークショップでは、「チャレコミっぽい」エピソードをあげその上でそこに含まれる要素は何かを話し合いました。みんなが、なんとなく共通で持っていることが言語化され共通認識として共有されていくのが衝撃でした。これは、他でも応用することができると思い良い学びとなりました。

研修もとても有意義でしたが、その後の懇親会も素敵な「問い」を伺う機会となりました。中でも、「自分が生きたいまちや地域はどんなのか」の話が印象に残っています。コーディネーターという立場を一度置いておいて純粋にどういう地域で生きたいか、またはどういう地域は嫌かを考えその中で自分ができることは何かを考えてみる重要性を感じました。



普段顔を合わす機会が少ない全国の皆さんと会えるのは、毎回純粋に楽しみです。

今自分が取り組んでいることの共有も、離れているとなかなか難しいと感じているので直接色々な方に話すことで自分の頭の整理にもつながった気がしています。自分が地域に入ってから、良い意味でもそうでない意味でも入り込むので視野が狭くなりがち、目の前の近々のことに目がいきがちになると感じています。

年2回のギャザリングでは、それぞれが地域でおかれている現状や役割を一旦置いておいて、フラットに、そして少し立ち止まって客観的に臨めるのがありがたいです。

ギャザリングは、インプットの間でもあるし、アウトプットの間でもあるし、自分自身の頭の整理の間でもあるなあと振り返って思いました。私はまだまだ学ぶ、相談する、という立場の方がどうしても強くなってしまっているののでしっかりこの場に還元していくことも頭に入れていきたいと思っています。



北は北海道南は九州まで各々の地域コーディネーターたちが一様に集まって、コーディネーターとしての役割を私のような学生でさえも理解可能な部分から一つ一つインプット、アウトプットを交互に行いながら、再確認、知識の補完を行いました。

その姿は、まるでコーディネーターが地域を超えて一つの大きな集団として、助け合いながら同じ方向に向かって走っているように感じました。

地域の中で企業と若者を結び、チャレンジを誘発する。そこには地域の人や大学や行政、民間等多くの人に協力して頂く仕事であり、二面性をもつ social project であり、自分ごとに落とし込めたことは今後の自分の関わる地域がどのような場に機能するか考える大きな武器になりました。

本当にありがとうございました。

来年ご参加頂ける際には、自分もコーディネーターとして、参加できるように、精進してまいります。

